

大学生において経口避妊薬（ピル）解禁が HIV 感染に及ぼす影響

荒川 長巳* 渡部 基^{2*} 野津 有司^{3*}

目的 経口避妊薬（以下、ピル）解禁の HIV（Human Immunodeficiency Virus）感染拡大に及ぼす影響を検討するため、大学生を対象として基礎的調査を実施した。

対象と方法 788人の大学生（男子学生349人、女子学生439人）を対象として、ピル解禁とコンドームの利用について質問紙法で調査し HIV 感染への影響を検討した。

結果 1)対象者の性交経験率は、男子学生が49.7%、女子学生が42.8%であった。

2)大部分の学生は HIV 感染拡大を予測していたが、HIV 感染の当事者としての知識あるいは認識は充分とは言えない状況であった。

3)現在のところ、避妊法としてコンドームが定着しているが、HIV 感染予防の観点からは完全な使用方法ではないと思われる結果であった。

4)男女とも4割がピル解禁に賛成であったが、当事者としてのピル利用には否定的であった。しかし、男女とも一部にピル利用に肯定的な学生がおり、また性交経験者においてピル利用に肯定的である傾向が認められた。

5)ピルが解禁された場合、学生は HIV 感染が拡大すると予測しているが、男女とも半数以上がピル利用時でも HIV 感染予防のためにコンドームを利用するとしていた。ただし、避妊のためのコンドーム利用に比較すれば後退した結果であった。また、性交経験者を中心にして、男子学生にコンドームに対する否定的な傾向が認められた。

結論 以上の結果より、HIV 感染予防の観点から見ると、今回対象とした大学生は性的活動性を有しているが感染に対する危機感が希薄でかつコンドーム利用も万全ではないことから注意の必要な集団と思われた。また、学生は当事者としてピル利用には否定的であったが約4割はピル解禁に賛成であり、特に性交経験者が肯定的傾向を示していることから、ピルが解禁された場合急速ではないがある程度普及すると思われた。ピル利用時でも HIV 感染予防のためコンドームを利用するという回答傾向が男女とも優位であったが避妊目的の場合ほどではなく、しかも男子学生はコンドーム利用に否定的傾向がありピル解禁時のコンドーム利用に対する意欲が減退する可能性が認められ、ピル解禁と HIV 感染拡大は無関係とは言えないと考えられた。

Key words : 経口避妊薬, HIV, エイズ, コンドーム, 大学生

I 緒 言

欧米諸国のいくつかでは、HIV（Human Immunodeficiency Virus）の新規感染が減少したと報じられているが、日本においては HIV 感染者・エイズ（AIDS, Acquired Immunodeficiency Syn-

drome）患者のいずれの報告も前年（1996年）を上回っており、HIV 感染は確実に拡大しているようである（<http://www.mhw.go.jp/houdou/1001/h0127-1.html>）。また、日本における経口避妊薬（以下、ピル）の解禁はさまざまな経過をとって^{1,2)}、主要先進国でいまだに解禁されていないのは日本だけの状態になった。HIV 感染が拡大しているこのような時期にピルを解禁することが HIV 感染に及ぼす影響については、避妊法としてのコンドームの利用が減少し HIV 感染が拡大するという主張やピル入手の際の医療機関受診

* 島根大学保健管理センター

^{2*} 北海道教育大学教育学部

^{3*} 秋田大学教育文化学部

連絡先：〒690-8504 島根県松江市西川津1060
島根大学保健管理センター 荒川長巳

で性感染症が早期発見されコンドームの適正な使用法について学ぶ機会が増え HIV 感染症を含む性感染症の蔓延を抑制する可能性があるという主張など種々の議論がある^{3,4)}。ピルと HIV 感染の関連については外国文献でも議論のあるところであり^{5,6)}、また発展途上国における研究⁷⁾やすでにピルが解禁されて久しい先進国の研究^{8,9)}では、日本の実状と懸け離れておりピル解禁後の経過を推測する資料にはならないと思われる。著者らは、20～24歳の年齢層にクラミジアの感染が多いこと¹⁰⁾や女性の異性間性的接触による HIV 感染は20歳代にピークがあることなど (<http://www.mhw.go.jp/houdou/1001/h0127-1.html>) から大学生は HIV 感染の危険性が高い世代に属すると考え、大学生を対象としてエイズに関する教育や研究を行ってきた^{11,12)}。ピルが解禁されていない現状では大学生とピルに関する報告は少ないが^{13,14)}、ピルが解禁された場合に大学生がどのような行動をとるのかを調査・予測し効果的な対応を考へておくことは多数の青年が大学に進学する現在極めて重要であると考え。そこで今回ピルが解禁された場合、HIV 感染にどのような影響を与えるのかを検討するため基礎的調査を実施してみた。

II 研究方法

1. 対象

対象者は、政令指定都市の国立2大学（男子学生118人、女子学生200人、合計318人）と地方都市の国立2大学（男子学生231人、女子学生239人、合計470人）の学生で、男子学生349人女子学生439人合計788人である。いずれも主に教育学系の学生で、平均年齢は男子学生19.4±0.9歳女子学生19.2±0.8歳と1回生が大半であった。

2. 調査方法

HIV・エイズについての知識に関する問題やコンドームあるいはピルの利用に関する質問からなる質問紙を作成した。男子学生と女子学生では質問項目が異なるため男子学生用の質問と女子学生用の質問を1枚の紙の表裏に色違いで印刷した。質問項目は、

「もしも、大学生にとってピル解禁と HIV 感染拡大に関係があるとするならば、

現状では、

1) 大学生は性活動的であり HIV 感染のリスク

が高いにもかかわらず、

2) HIV 感染に対して危機感がなく (HIV に対する知識とその感染に対する危機意識がない)、

3) 現在は避妊法としてコンドームを利用しているため結果的には HIV 感染の拡大が抑制されているが、

今後、ピルが解禁された場合には、

4) ピルが普及し、

5) その結果、ピルの利用によりコンドームの利用率が下がり HIV 感染の拡大が予想されるはずである。」

という5つの条件を考慮して作成した。HIV に関する知識問題など一部の項目には「わからない」といった意味で「？」という選択肢を用意したが、ほとんどの項目は「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4つの選択肢から1つを選んで回答する形式を採用した。なぜなら、ピルが解禁されていない現状において性交経験のない学生も対象としているこの調査に「どちらでもない」や「わからない」という選択肢を用意すればこれらの回答が多くなり、ピル解禁後の方向性がわかりにくくなると予測されたためである。質問項目は、学生が回答しやすいように知識問題を前半に配列し性交経験など回答にくいものを後半に配列した。また、本調査は一般の大学生を対象としたもので、HIV や HIV 感染予防をエイズウイルスとかエイズ予防などと表記したり性的関係のある異性を「パートナー」と表現したりして対象者と教育現場に配慮した（資料参照）。

調査は、講義時間を利用し平成10年1月から4月の間に集団無記名自記式で実施した。実施に当たっては学生間の距離を十分にとり、回答した質問用紙は学生自ら封筒に入れて密封した後回収した。

知識問題の正答率の差異やピル解禁に対する態度については χ^2 検定、性差あるいは性交経験の有無による回答の差異については Mann-Whitney 検定、回答間の差異については Wilcoxon 符号付き順位検定を利用して結果を比較した。

III 研究結果

有効回答率は、不備な回答をした学生が1人い

表1 性交経験率と他人の性行動についての認識
男子学生 n=348, 女子学生 n=439

項目	性別	はい	いいえ	無回答
あなたは、性交経験がありますか	男	49.7%	48.3%	2.0%
	女	42.8	55.1	2.1

男子学生 n=348, 女子学生 n=439

項目	性別	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
あなたは、同時に複数の異性と交際する人が多いと思いますか	男	12.1% (15.6%, 8.4%)	27.0% (26.0%, 27.7%)	26.7% (28.9%, 25.3%)	33.3% (29.5%, 38.6%)
	女	8.0 (9.6, 6.7)	23.5 (26.2, 22.6)	27.3 (26.2, 29.3)	39.9 (38.0, 41.4)

()内は、性交経験のある学生とない学生の回答の比率を表す (性交経験あり, 性交経験なし)

は、性別による差異を表す (: p<0.05)

たため99.9%であった。政令指定都市と地方都市の結果の間にはほとんど差異はなく両方の結果をまとめて処理した。

1. 性交経験率と他人の性行動についての認識 (表1)

性交経験率は、男子学生で49.7%と約半数、女子学生では42.8%と約4割であった。回答欄が空白だったのは約2%であった (他の項目に関しては表に空欄の比率を表示していないが概ね2%未満であった)。また、同時に複数の異性と交際する人が多いかという質問には約6割が否定的に回答しており、女子学生の方がより否定的な傾向が認められた ($z=-2.5, p<0.05$)。

2. HIV感染に関する知識と認識について (表2)

HIV感染に関する知識を問う問題を5題出題したが、女性の方が感染率の高いことを知っていたのは男子学生が35.6%、女子学生が44.6%であり有意な性差が認められた ($\chi^2=6.5, df=1, p<0.05$)。また、潜伏期間についても正確な知識を有しているのは、約半数であった。この2間においては、男子学生で性交経験の有無によって正答率に差が認められ、いずれも性交未経験の方が正答率が高かった ($\chi^2=17.3, df=1, p<0.001, \chi^2=6.5, df=1, p<0.05$)。日本における女性のHIV感染者が20歳代に一番多いことやコンドームがHIV感染予防に有効なことは多くの学生が

知っていたが、後者の項目では女子学生で性交経験者の方が正答率が高かった ($\chi^2=6.1, df=1, p<0.05$)。ピルではHIV感染を有効に予防できないと回答した学生は6割前後であった。

HIV感染の拡大に関しては男女それぞれ9割近くの学生が肯定的に回答しており性差は認められないが、自分のHIV感染する機会に関しては、肯定的に回答した男子学生が49.2%であったのに対して女子学生では31.0%と少なく著明な性差が認められた ($z=-4.6, p<0.001$)。ところが、HIVの血液検査をためしてみたいかという質問に関しては、性差は認められず男女ともに約半数が肯定的に回答していた。また、男子学生では性交経験者の方がHIVの血液検査については有意に肯定的に回答していた ($z=-3.2, p<0.01$)。

3. 避妊法としてのコンドームの利用について (表3)

コンドームを使うのは避妊のためかという質問に肯定的に回答した男子学生は92.8%で、性交経験者の方がより肯定的に回答していた ($z=-3.8, p<0.001$)。一方、女子学生では、パートナーに対して避妊のためにコンドームの使用を言いたせるかという質問に89.1%が肯定的に回答していたが、自分でコンドームを購入できるかという質問には48.5%、コンドームを常時携帯できるかという質問には39.2%しか肯定的に回答していなかった。この3間に関しては、いずれも性交経

表2 HIV感染に関する知識と認識について
エイズに関する知識 男子学生 n=348, 女子学生 n=439

質 問 項 目	正 答	正 答 率	
		男子学生	女子学生
エイズウイルスの1回の性交での感染率は？	女性の方が高い	35.6% ^{†††} (24.9%, 46.4%)	44.6% * (43.6%, 45.0%)
日本人で女性エイズウイルス感染者が一番多いのは？	20 歳 代	76.7 (75.7, 77.4)	80.2 (80.9, 78.9)
エイズ発症までの平均潜伏期間は？	10 年	50.9 [†] (43.9, 57.7)	49.9 (49.5, 50.0)
コンドームは、エイズウイルス感染予防に有効である。	は い	94.0 (94.8, 92.9)	94.8 [†] (97.9, 92.6)
経口避妊薬（ピル）ではエイズウイルス感染を有効に予防できない。	は い	58.3 (61.3, 54.2)	64.0 (68.6, 61.2)

エイズに対する認識 男子学生 n=348, 女子学生 n=439

項 目	性別	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
あなたは、エイズウイルスはこれから感染拡大すると思いますか	男	61.8% (57.8%, 66.1%)	29.3% (30.6%, 27.4%)	6.9% (9.8%, 4.2%)	2.0% (1.7%, 2.4%)
	女	60.1 (63.3, 56.6)	29.4 (26.1, 32.6)	9.8 (9.6, 10.3)	0.7 (1.1, 0.4)
あなたは、自分がエイズウイルスに感染する機会があると思いますか	男	19.0 (22.5, 14.9)	30.2 (26.6, 34.5)	31.6 (31.2, 32.1)	19.3 (19.7, 18.5)
	女	8.0 (7.4, 7.9)	23.0 (26.1, 21.1)	46.5 (44.1, 47.9)	22.6 (22.3, 23.1)
あなたは、エイズウイルスの血液検査が秘密でできればためしてみたいと思いますか	男	26.1 (34.1, 18.5)	25.3 (24.3, 26.8)	18.4 (17.3, 19.0)	30.2 (24.3, 35.7) ^{††}
	女	22.1 (26.1, 19.4)	25.1 (21.3, 26.9)	22.3 (26.1, 19.4)	30.5 (26.6, 34.3)

()内は、性交経験のある学生とない学生の回答の比率を表す（性交経験あり，性交経験なし）

は、性別による差異を表す (: p<0.05, ***: p<0.001)

†は、性交経験の有無による差異を表す (†: p<0.05, ††: p<0.01, †††: p<0.001)

験者の方が著明に肯定的に回答していた (z=-5.8, p<0.001, z=-5.9, p<0.001, z=-6.3, p<0.001)。

コンドームがなかった場合に性行為を控えるかどうかに関しては、女子学生の78.3%が肯定的に回答しているにもかかわらず、男子学生では62.6%しか肯定的に回答しておらず、著明な性差が認められた (z=-6.6, p<0.001)。また、女子学生では、性交経験者の方が否定的に回答する割合が多かった (z=-2.5, p<0.05)。

4. 経口避妊薬（ピル）解禁に対する態度と利用の可能性について（表4）

ピル解禁に賛成の男子学生は39.7%で、反対する学生は15.5%であった。一方、女子学生で賛成する学生は38.7%と男子学生とほぼ等しいが、反対する学生が8.7%と男子学生より少なく性差が認められた ($\chi^2=10.3$, df=2, p<0.01)。いずれにしても「？」の比率がもっとも大きかった。また、女子学生では性交未経験者に「？」の比率が大きく性交経験による差異が認められた (χ^2

表3 避妊法としてのコンドームの利用について
男子学生 n=348, 女子学生 n=439

項目	性別	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
あなたは、コンドームがない場合には性行為を控えると思いますか	男	28.7% (30.1%, 28.0%)	33.9% (30.1%, 36.9%)	23.0% (22.5%, 23.2%)	14.4% (17.3%, 11.9%)
	女	50.3 (48.4, 52.9)	28.0 (20.7, 35.3)	12.1 (18.1, 7.1)	8.2 (12.8, 4.6)

男子学生のみ n=348					
項目		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
あなたは、コンドームを使うのは避妊のためだと思いますか		70.7% (80.3%, 61.3%)	22.1% (14.5%, 29.2%)	4.0% (3.5%, 4.8%)	3.2% (1.7%, 4.8%)
†††					
女子学生のみ n=439					
項目		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
あなたは、性行為の場でパートナーに避妊のためにコンドームを使うように言えると思いますか		62.0% (78.5%, 50.0%)	27.1% (15.4%, 36.3%)	7.7% (4.8%, 10.4%)	2.5% (1.6%, 3.3%)
あなたは、コンドームを自分で購入できると思いますか		28.0 (43.1, 16.5)	20.5 (19.1, 21.1)	28.7 (22.3, 33.5)	22.8 (15.4, 28.9)
あなたは、コンドームを常時携帯できると思いますか		19.8 (32.4, 10.3)	19.4 (22.3, 16.9)	31.2 (26.1, 34.7)	29.6 (19.1, 38.0)

()内は、性交経験のある学生とない学生の回答の比率を表す (性交経験あり, 性交経験なし)

*は、性別による差異を表す (***) : $p < 0.001$

†は、性交経験の有無による差異を表す († : $p < 0.05$, ††† : $p < 0.001$)

=6.8, $df=2$, $p < 0.05$)。

男子学生では、パートナーにピルを利用して欲しいかという質問に35.6%、身近にピルを利用しそうな女性を想起できるかという質問には50.3%、友人のパートナーがピルを利用したら自分のパートナーにも利用して欲しいかという質問には44.5%が「そう思わない」と回答しており最も多く、「そう思う」という回答は13.2%、16.1%、8.6%と少なく肯定的回答は約3分の1であった。身近にピルを利用しそうな女性を想起できるかという質問では、性交経験による差異が認められ性交経験の方が肯定的回答をしていた ($z = -3.8$, $p < 0.001$)。

一方女子学生では、ピルをためてみたいかという質問に39.4%、薬局で容易に入手できればた

めしてみたいかという質問とピルを入手するために病院を受診できるかという質問には36.2%が「そう思わない」と回答しており最も多く、「そう思う」と回答したのはそれぞれ15.3%、16.4%、14.4%と少なく肯定的回答は約3割であった。性交経験の方がより肯定的に回答していたが ($z = -5.0$, $p < 0.001$, $z = -4.9$, $p < 0.001$)、ピルを入手するため病院を受診できるかという質問では有意差を認められなかった。またピルを利用しそうな友人を想起できるかという質問には40.3%、友人がピルを利用したら自分も利用するかという質問には39.4%が「そう思わない」と回答しており最も多く、「そう思う」と回答したのは16.2%、10.3%であり肯定的回答は3割であった。ここでも性交経験の方がより肯定的に回答していた ($z =$

表4 経口避妊薬（ピル）解禁に対する態度と利用の可能性について

男子学生 n=348, 女子学生 n=439

項 目	性別	賛 成	わからない	反 対
経口避妊薬（ピル）解禁について、あなたは？	男	39.7% (43.9%, 36.3%)	44.8% (43.9%, 45.2%)	15.5% (12.1%, 18.5%)
	女	38.7 (45.7, 33.5)	52.6 (46.3, 57.4)	8.7 (8.0, 9.1)

**
†

男子学生のみ n=348

項 目	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
あなたは、パートナーに経口避妊薬（ピル）を利用してほしいと思いますか	13.2% (16.2%, 10.2%)	25.9% (21.4%, 31.1%)	25.0% (22.0%, 28.7%)	35.6% (40.5%, 29.9%)
あなたは、身近な女性で経口避妊薬（ピル）を利用しそうな人を想起できますか	16.1 (21.5, 10.1)	10.1 (12.2, 8.3)	23.0 (25.0, 21.4)	50.3 (41.3, 60.1)
あなたは、友人のパートナーが経口避妊薬（ピル）を利用したら、自分のパートナーにも利用してほしいと思いますか	8.6 (9.2, 7.8)	22.4 (18.5, 26.9)	24.1 (22.5, 26.9)	44.5 (49.7, 38.3)

††

女子学生のみ n=439

項 目	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
あなたは、経口避妊薬（ピル）を試してみたいと思いますか	15.3% (23.4%, 9.5%)	18.0% (20.7%, 15.3%)	27.3% (28.2%, 27.7%)	39.4% (27.7%, 47.5%)
あなたは、経口避妊薬（ピル）を薬局で容易に入手できれば試してみたいと思いますか	16.4 (26.1, 9.5)	21.0 (21.8, 20.2)	26.4 (27.1, 26.4)	36.2 (25.0, 43.8)
あなたは、経口避妊薬（ピル）を手に入れるために病院を受診できると思いますか	14.4 (14.9, 14.6)	17.3 (17.6, 17.5)	31.7 (33.5, 30.8)	36.2 (34.0, 37.1)
あなたは、身近に経口避妊薬（ピル）を利用しそうな友人を想起できますか	16.2 (22.9, 10.7)	20.7 (21.8, 20.2)	22.8 (22.3, 23.6)	40.3 (33.0, 45.5)
あなたは、友人が経口避妊薬（ピル）を利用したら、自分もためすと思いますか	10.3 (16.5, 5.4)	19.8 (25.5, 15.3)	30.5 (31.9, 30.2)	39.4 (26.1, 49.2)

††

†††

()内は、性交経験のある学生とない学生の回答の比率を表す（性交経験あり，性交経験なし）

*は、性別による差異を表す (**: p<0.01)

†は、性交経験の有無による差異を表す (†: p<0.05, ††: p<0.01, †††: p<0.001)

表5 経口避妊薬(ピル)解禁とHIV感染予防法としてのコンドームの利用について
男子学生 n=348, 女子学生 n=439

項目	性別	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
あなたは、経口避妊薬(ピル)が解禁されたらエイズウイルス感染が増えると思いますか	男	34.5% (38.2%, 29.8%)	32.2% (30.1%, 35.1%)	22.4% (22.5%, 22.6%)	10.9% (9.2%, 12.5%)
	女	18.7 (18.7, 18.3)	46.9 (53.5, 42.9)	25.3 (18.7, 30.8)	8.4 (9.1, 7.9)
あなたは、できればコンドームを利用したくないと思いますか	男	23.6 (31.2, 16.1)	26.4 (27.2, 26.8)	26.4 (21.4, 31.0)	23.3 (20.2, 26.2)
	女	9.3 (14.9, 5.0)	11.2 (16.0, 7.5)	21.2 (16.0, 25.3)	57.6 (53.2, 62.2)
あなたは、コンドームを使わない方が快感が大きいと思いますか	男	52.0 (69.9, 35.2)	31.9 (22.5, 41.8)	7.8 (3.5, 12.1)	7.2 (4.0, 10.9)
	女	16.4 (26.6, 8.0)	30.3 (32.4, 29.8)	25.1 (18.1, 31.9)	26.9 (22.9, 30.3)
あなたは、コンドームを使うのは面倒くさいと思いますか	男	30.2 (40.5, 21.0)	34.5 (30.6, 38.3)	19.3 (15.0, 22.2)	15.8 (13.9, 18.6)
	女	11.4 (14.9, 8.3)	19.1 (18.1, 20.3)	26.2 (22.3, 29.9)	42.6 (44.7, 41.5)
男子学生のみ n=348					
項目		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
あなたが、コンドームを使うのはエイズ予防のためだと思いますか		47.7% (46.2%, 50.0%)	29.3% (24.9%, 33.9%)	16.1% (19.1%, 12.5%)	6.9% (9.8%, 3.6%)
もしもパートナーが経口避妊薬(ピル)を利用していたら、あなたはエイズ予防のためにコンドームを使用すると思いますか		41.7 (37.6, 45.8)	24.1 (20.8, 27.4)	22.4 (26.6, 18.5)	11.5 (15.0, 8.3)
女子学生のみ n=439					
項目		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
あなたは、性行為の場でパートナーにエイズ予防のためにコンドームを使うように言えると思いますか		38.3% (43.6%, 35.0%)	27.8% (23.4%, 31.7%)	24.8% (25.5%, 24.2%)	8.4% (7.4%, 9.2%)
あなたは、もしも経口避妊薬(ピル)を利用していた場合、パートナーにエイズ予防のためにコンドームを使用するように言えると思いますか		36.4 (42.6, 31.8)	27.6 (23.4, 31.4)	26.9 (24.5, 29.3)	8.2 (9.6, 7.5)

()内は、性交経験のある学生とない学生の回答の比率を表す(性交経験あり, 性交経験なし)

は、性別による差異を表す(: p<0.05, ***: p<0.001)

†は、性交経験の有無による差異を表す(†: p<0.05, ††: p<0.01, †††: p<0.001)

-3.4, $p < 0.01$, $z = -5.7$, $p < 0.001$ 。

5. 経口避妊薬(ピル)解禁とHIV感染予防法としてのコンドームの利用について(表5)

ピル解禁でHIV感染が増加すると思うかという質問に3分の2の学生が肯定的に回答していたが、男子学生では「そう思う」という回答の比率が大きく女子学生では「どちらかといえばそう思う」という回答の比率が大きかったため性差が認められた($z = -2.5$, $p < 0.05$)。できればコンドームを利用したくないかという質問やコンドームを使用しない方が快感が大きいかという質問やコンドームを使用するのは面倒くさいかというコンドームの利用に関する3つの質問では男子学生の方が肯定的に回答する比率が大きく著明な性差が認められ($z = -10.2$, $p < 0.001$, $z = -12.1$, $p < 0.001$, $z = -10.0$, $p < 0.001$)、かつ男女とも性交経験者の方がより肯定的に回答する傾向を示した(男子学生 $z = -3.1$, $p < 0.01$, $z = -6.5$, $p < 0.001$, $z = -3.4$, $p < 0.01$, 女子学生 $z = -3.0$, $p < 0.01$, $z = -4.6$, $p < 0.001$)。

男子学生ではエイズ予防のためにコンドームを利用するかという質問とパートナーがピルを利用していた場合にエイズ予防のためにコンドームを利用するかという質問には「そう思う」という回答が最も多くそれぞれ47.7%, 41.7%を占め肯定的回答が6割以上であったが、後者では性交経験者の否定的回答の比率が高くなっていた($z = -2.5$, $p < 0.05$)。また、両問の回答を比較するとピルを利用していた場合の肯定的回答の比率が低くなっていた($z = -3.4$, $p < 0.01$)。また、この両問の結果とコンドームを使うのは避妊のためかという前述の質問の回答(表3)との間にはそれぞれ著明な有意差($z = -7.0$, $p < 0.001$, $z = -8.5$, $p < 0.001$)が認められ肯定的回答の比率が減少していた。一方女子学生では、エイズ予防のためにコンドームを利用するように言えるかという質問とピルを利用してもエイズ予防のためにコンドームを利用するように言えるかという質問には「そう思う」という回答が最も多くそれぞれ38.3%, 36.4%を占め、約3分の2が肯定的に回答しており、性交経験による差異は認められなかった。両問間に有意差は認められなかったが、避妊のためにコンドームを使うように言えるかという質問の回答(表3)に比較すると、それぞれ有意

差($z = -10.6$, $p < 0.001$, $z = -11.1$, $p < 0.001$)が認められ肯定的回答の比率が減少していた。

IV 考 察

今回の調査では性交経験者が男子学生で約半数、女子学生で4割強という結果であった。調査時期が2回生になる直前あるいはなった直後であったので、1993年に全国規模で実施された調査¹⁵⁾の2回生の結果(男子学生39.3%, 女子学生45.2%)と比較してみると、男子学生では今回の調査の性交経験率の方が高く一方女子学生では若干低いというものであった。また、学生の行動は周囲の人、特に友人の行動をどう認識するかということに影響を強く受けられると思われるが、今回の調査からは他人が盛んな性行動をとっているというふうに考える傾向は少ないようであった。しかし、先行研究の指摘するように4回生までに約7割の学生が性交経験を持つようになるのではないかと考えられ¹⁵⁾、大学生はHIV感染予防の観点からは注意すべき集団といえると思われる。

大学生が性行為によってHIVに感染する可能性があるとするれば、HIV感染に関する知識を持っておらず不用意な性行動をとる場合やあるいは知識はあっても自分が感染すると思っておらず危険な性行動をとっている場合などが考えられる。著者らの過去の調査や最近の学会報告によれば約9割の大学生はHIV/AIDS教育を受けていると考えてよいが^{16,17)}、今回の調査では男女とも半数以上の学生において女性の方が感染率の高いことを知らなかった。性感染症では女性の感染率の方が高くそのうえコンドームを自分に装着できないため、女性が相対的に不利な立場に立たされる。全体として正答率が半数に届かなかったことは、エイズが発見当初男性同性愛者の疾患と考えられた歴史的経過からみて当然のことかもしれないが、女性の方が不利であることを知らないことは、女子学生が自分で自分を守ることに對する動機づけを弱くしてしまう可能性が唆された。また、学生は感染リスクの高い年代にあるという知識はあるようであるが、潜伏期間が長いこと知っていた学生は半数で、感染者の多くが自分の感染事実を知っていないという現状についての認識を得にくく、このことがエイズを身近な疾病と考えられない理由のひとつと想像された。ピルでは有

効な HIV 感染予防ができないことについては6割しか正答がなかった。これは回答として「わからない」を選択した者が3割弱いたため、現実問題としてピルが解禁されておらずやむを得ない結果かもしれない。そのほか、知識問題で興味深いのは、男子学生では性交未経験者の正答率が高く、女子学生では性交経験者の正答率が高かった項目が認められたことで、それぞれの集団の中で性的に活発な学生の特徴を示しているのかもしれないと思われた。

HIV 感染については大部分の学生が拡大を予測しているが、自分の感染可能性について自覚があるのは半数以下であった。しかも、感染率の高い女子学生の方が HIV 感染への危機感が男子学生より弱く、今後のピル解禁を考慮すると、女子学生に対し当事者としてのエイズ教育の充実が必要と思われる結果であった。ただし、HIV の血液検査に関する質問には性差が認められず、将来のこととしては女子学生も必ずしも安全と考えているわけではないのかもしれないとも考えられた。また、性交経験のある男子学生の方が有意に血液検査をためてみたいと回答したことから、彼らの性行動の危険さについての自覚があることが伺えた。今後性交経験率が上昇するとともにこの比率は上昇する可能性があるのではないかと思われた。

さて現在のところピルは解禁されておらず、主な避妊法はコンドームの利用と考えられるが¹⁵⁾、避妊のためにコンドームの使用をパートナーに言い出せると回答した女子学生は約9割、一方コンドームの使用は避妊のためと回答した男子学生も9割以上おり、避妊法としてコンドームが定着していることがわかる。コンドームは、現在のところ（女性用は普及しておらず）男性用しかないことまた性行為の場になければ用をなさないこと、そして HIV 感染では女性の方が不利なことを考慮すれば、女性がコンドームを携帯し自分を守るようにするのが避妊法としても HIV 感染予防としても現実的に思える。しかし、コンドームを購入できるあるいはコンドームを常時携帯できると回答した女子学生は半数以下であった。避妊のためにコンドームを使用するようにパートナーに言えると回答した女子学生が9割いることから計慮すれば、性行為の場にコンドームを持ち込むのは

男性の方と考えているようである。しかし、コンドームのない場合性行為を控えると回答した男子学生は女子学生より明らかに少なく、現時点でも男子学生はコンドームの利用に積極的ではない傾向が伺えた。また、女子学生においても性交経験者ではコンドームのない場合に性行為を控えると回答する傾向が少なく、これは性交の場を経験するとコンドームがないからといって性交を控えることが難しいと感じるかあるいは妊娠の可能性のない場合はコンドームがなくても性交するというものであろうかと思われる。いずれにしても HIV 感染予防の立場からみればコンドームの利用は徹底されていない可能性が認められた。女子学生は性行為時に自分を守るためにコンドームの携帯を考慮することが必要と思われるが、性交経験のある女子学生の方がコンドームの購入や携帯に肯定的に回答しており、実際の経験が行動を変えうる可能性もあると思われた。

ピルの解禁については、「わからない」という態度保留の回答が最も多いが、男女とも約4割の学生が賛成であり反対の比率より顕著に多かった。しかし、男子学生の3分の1以上が、パートナーのピル利用を明らかに否定（「そう思わない」と回答）しており、友人のパートナーがピルを利用した場合にも同様に否定的回答が多く、この調査からは男子学生は全体としてピル利用に否定的と言えらる。一方、女子学生も全体としてはピル利用に否定的傾向が強かった。しかし、一部に肯定的な学生もみられ、そうした学生は性交経験者に多かった。ピルの入手のための病院受診に関しては、性交経験による差異が認められなくなっているが、これは性交経験者の薬局で手に入ればピルをためてみたいが病院までは行きたくないといった傾向を示していると思われた。もしそうであれば、入手に病院の受診が必要な場合大学生ではピルがあまり普及しないと思われる。結論として、大学生においてピルが急速に普及するとは思われないが、ある程度の普及の可能性があると考えられた。その場合、ピル利用に積極的な学生の性行動に関して注意する必要があると思われた。

たとえピルが解禁された場合でも、HIV 感染に対して適切に対応をすることができれば HIV 感染の拡大を招くことはないと考えられるが、約7割の学生はピルが解禁されると HIV 感染が拡

大すると予測しており、男子学生の方がより強く意識しているようであった。コンドームの利便性については、男子学生の方がより否定的かつ性交経験者にその傾向が著明であり、性交経験率の上昇とともに男子学生がコンドームの利用に対して消極的になる可能性が示唆された。また、性交経験のある女子学生もそれを追認しているような結果であり、その分避妊法としてのピルに対する需要が増えると思われた。

男子学生ではコンドームの利用は避妊のためかという質問に「そう思う」という明確な回答が7割を越えているが HIV 感染予防については5割を越えず、また女子学生でも同様の傾向で、全体としてコンドームが HIV 感染の予防法として避妊目的ほどは意識されていないことがわかる。

コンドームの利用を HIV 感染予防のためと考える男子学生が8割弱いるが、一方パートナーがピルを利用していた場合でも HIV 感染予防のためにコンドームを利用すると回答した学生の比率は減少し、コンドームの利用に否定的な学生が3分の1を占めるようになった。かつ性交経験のある男子学生の方がコンドームを使用することに対しての否定的傾向が強く、ピル解禁時の男子学生のコンドーム利用に対する意欲は減退すると考えられた。

一方、女子学生では、約3分の2の学生が、HIV 感染予防のためにコンドームの利用を言い出せると回答しており、ピルを利用していた場合でも同様の回答傾向であった。この結果をみると女子学生の3分の2はピルを利用しているも HIV 感染から自分を守れると考えていることがわかる。性交経験による差異は認められずこの意識に性交経験は関係ないようであった。

以上から、ピル解禁時でも大学生は HIV 感染予防のためコンドームを利用すると考えられた。しかし、男女とも HIV 感染予防としてのコンドーム利用は避妊目的ではなく、また男子学生にはコンドームに対する否定的傾向がありピル解禁時にコンドーム利用の意欲が減退する可能性が認められ、ピル解禁と HIV 感染拡大は無関係とは言えないと考えられた。

本調査から、現時点ではピル解禁と同時に大学生にピルが普及し HIV の感染拡大が起こる可能性は低いことがわかる。しかし、本研究の対象者

は限られた国立大学生でありしかも約半数に性交経験がなかった。今後さらに、ピル解禁の HIV 感染拡大への影響を調べるためには、大学生以外の同世代者や既婚者などを含めた一般の集団を対象とした同様の調査が必要と思われた。

調査にご協力を頂いた島根大学教育学部猪野郁子教授ならびに喜多村望教授、神戸大学人間発達科学部岡田修一助教授に深謝いたします。

(受付 '98. 6. 8)
(採用 '99. 1.18)

文 献

- 1) 桑原慶紀. 経口避妊薬の沿革と将来. 日本医師会雑誌 1996; 108: 573-576.
- 2) 北村邦夫. ピルの認可は性感染症を蔓延させるか. 治療学 1997; 31: 869-872.
- 3) 小島弘敬. 低容量ピルと性感染症. 臨婦産 1997; 51: 396-401.
- 4) 北村邦夫. STD の蔓延とは無関係 早急な認可を期待. 日経メディカル 1997; 12: 133-136.
- 5) Daly CC, Helling-Giese GE, Mati JK, et al. Contraceptive methods and the transmission of HIV: implications for family planning. *Genitourin Med* 1994; 70: 110-117.
- 6) Carlin EM, Boag FC. Women, contraception and STDs including HIV. *International Journal of STD and AIDS* 1995; 6: 373-386.
- 7) Simonen JN, Plummer FA, Ngugi EN et al. HIV infection among lower socioeconomic strata prostitutes in Nairobi. *AIDS* 1990; 4: 139-144.
- 8) Frank M. L., Bateman L., Poindexter A. N. Planned condom use by women with norplant implants. *Advances in Contraception*. 1993; 9: 227-232.
- 9) Stanton BF, Li X, Galbraith, MA et al. Sexually transmitted diseases, human immunodeficiency virus, and pregnancy prevention. *Arch pediatr adolesc med* 1996; 150: 17-24.
- 10) 川名 尚, 小泉佳男. 新たな性感染症の臨床. 公衆衛生 1992; 56: 606-610.
- 11) 荒川長巳. 大学生の AIDS に関する知識と意識. 学校保健研究 1995; 36: 641-650.
- 12) 荒川長巳. ケースピネット法を利用したシミュレーションによる HIV 感染者のカミングアウト (感染事実の表明) に関する研究. 日本公衆衛生雑誌 1997; 44: 749-759.
- 13) 福島紀子, 松本佳代子. 経口避妊薬 (第1報) —服用希望の有無によるイメージの違い—. 日本学校保健学会編. 第44回日本学校保健学会講演集. 松

- 山：第44回日本学校保健学会事務局，1997；278-279.
- 14) 松本佳代子，福島紀子．経口避妊薬（第2報）—経口避妊薬の情報源—．日本学校保健学会編．第44回日本学校保健学会講演集．松山：第44回日本学校保健学会事務局，1997；280-281.
- 15) 木村龍雄，皆川興榮，西種子田弘芳，他．我が国における大学生の性・エイズに関する調査研究 第1報性行動欲求及び性意識・性行動について．学校保健研究 1995；37：386-400.
- 16) 荒川長巳，新入生の AIDS に対する知識と意識．学校保健研究 1995；37：121-130.
- 17) 今中正美，道本千衣子，薩田清明，他．女子大学生のエイズに関する意識及び知識調査（1993年との比較）．日本学校保健学会編．第44回日本学校保健学会講演集．松山：第44回日本学校保健学会事務局，1997；230-231.

資料（質問項目と選択肢）1

【男子学生用質問紙】

あなたは何歳ですか？ () 歳

以下の質問の正しいと思うもの（わからない場合は「？」）に○をしてください。

- | | | | | |
|------------------------------------|------------|---------|------------|--------|
| 1. エイズウイルスの1回の性交での感染率は？ | 1. 男性の方が高い | 2. 同じ位 | 3. 女性の方が高い | |
| 2. 日本で女性のエイズウイルス感染者が一番多いのは？ | 1. 10歳代 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 | |
| 3. エイズ発症までの平均的潜伏期間は？ | 1. 1週間 | 2. 1ヶ月 | 3. 3年 | 4. 10年 |
| 4. コンドームは，エイズウイルス感染予防に有効である。 | 1. はい | 2. ? | 3. いいえ | |
| 5. 経口避妊薬（ピル）ではエイズウイルス感染を有効に予防できない。 | 1. はい | 2. ? | 3. いいえ | |
| 6. 経口避妊薬（ピル）解禁について，あなたは？ | 1. 賛成 | 2. ? | 3. 反対 | |

以下の質問に，「そう思う」なら1，「どちらかといえばそう思う」なら2，「どちらかといえばそう思わない」なら3，「そう思わない」なら4と（ ）内に記入して下さい。

- | | |
|--|--------------|
| 7. あなたは，エイズウイルスはこれから感染拡大をしますか | () |
| 8. あなたは，自分がエイズウイルスに感染する機会があると思いますか | () |
| 9. あなたは，エイズウイルスの血液検査が秘密でできればためしてみたいと思いますか | () |
| 10. あなたは，パートナーに経口避妊薬（ピル）を利用してほしいと思いますか | () |
| 11. あなたは，経口避妊薬（ピル）が解禁されたらエイズウイルス感染が増えると思いますか | () |
| 12. あなたは，身近な女性で経口避妊薬（ピル）を利用しそうな人を想起できますか | () |
| 13. あなたは，友人のパートナーが経口避妊薬（ピル）を利用したら，自分のパートナーにも利用して欲しいと思いますか | () |
| 14. あなたが，コンドームを使うのは避妊のためだと思いますか | () |
| 15. あなたが，コンドームを使うのはエイズ予防のためだと思いますか | () |
| 16. もしもパートナーが経口避妊薬（ピル）を利用していたら，あなたはエイズ予防のためにコンドームを使用すると思いますか | () |
| 17. あなたは，できればコンドームを利用したくないと思いますか | () |
| 18. あなたは，コンドームを使わない方が快感が大きいと思いますか | () |
| 19. あなたは，コンドームを使うのは面倒くさいと思いますか | () |
| 20. あなたは，コンドームがない場合には性行為を控えると思いますか | () |
| 21. あなたは，同時に複数の異性と交際する人が多いと思いますか | () |
| 22. あなたは，性交経験がありますか（どちらかに○をして下さい）？ | 1. はい 2. いいえ |

資料 (質問項目と選択肢) 2

【女子学生用質問紙】

あなたは何歳ですか? () 歳

以下の質問の正しいと思うもの(わからない場合は「?」)に○をしてください。

1.~6. 男子学生用質問紙と同じ

以下の質問に、「そう思う」なら1,「どちらかといえばそう思う」なら2,「どちらかといえばそう思わない」なら3,「そう思わない」なら4と()内に記入して下さい。

7. 男子学生用質問紙7と同じ
8. 男子学生用質問紙8と同じ
9. 男子学生用質問紙9と同じ
10. あなたは、経口避妊薬(ピル)をためてみたいと思いますか ()
11. あなたは、経口避妊薬(ピル)を薬局で容易に入手できればためてみたいと思いますか ()
12. あなたは、経口避妊薬(ピル)を手に入れるために病院を受診できると思いますか ()
13. 男子学生用質問紙11と同じ
14. あなたは、身近に経口避妊薬(ピル)を利用しそうな友人を想起できますか ()
15. あなたは、友人が経口避妊薬(ピル)を利用したら自分もためすと思いますか ()
16. あなたは、コンドームを自分で購入できると思いますか ()
17. あなたは、コンドームを常時携帯できると思いますか ()
18. あなたは、性行為の場でパートナーに避妊のためにコンドームを使うように言えると思いますか ()
19. あなたは、性行為の場でパートナーにエイズ予防のためにコンドームを使うように言えると思いますか ()
20. あなたは、もしも経口避妊薬(ピル)を利用していた場合、パートナーにエイズ予防のためにコンドームを使用するように言えると思いますか ()
21. 男子学生用質問紙17と同じ
22. 男子学生用質問紙18と同じ
23. 男子学生用質問紙19と同じ
24. 男子学生用質問紙20と同じ
25. 男子学生用質問紙21と同じ
26. 男子学生用質問紙22と同じ